

公益財団法人 書壇院

平成 27 年度 事業報告

I	公益事業 1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	1 頁
2	講演会・ギャラリートーク	2 頁
3	展覧会	3 頁
II	公益事業 2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	5 頁
2	書道教育研究誌の頒布	5 頁
3	次代を担う指導者の育成	7 頁
III	収益事業	
1	事務所床賃貸事業	10 頁
2	書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業	10 頁
IV	その他	
1	懇親会	10 頁
V	新事業の検討	10 頁

【Ⅰ】 公益事業 1 書道に関する普及啓蒙活動事業

『1』 収蔵品の調査研究と貸出・公開

1 企画維持管理

- (1) 書壇院が受け入れた新規購入及び寄贈品の整理・配架
- (2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理
 - ① 閲覧図書管理（本の破れ等の修理は平成 28 年度以降とする。）
 - ② カビ対策として 7 月に、庫内に除湿機を設置した。
- (3) 全収蔵品にバーコードと棚番号のシールを貼付した。その番号を収蔵品の目録のデータに入力する作業は、現在も継続中である。
- (4) 書壇院ギャラリー展示を実施した。
 - ① 第 97 回展（平常展示）「かなと書簡」
 - ② 第 98 回展（平常展示）「吉田苞竹展」
 - ③ 第 8 回「書壇院 日本文の書」展 I・II・III
 - ④ 第 99 回展（平常展示）「吉田苞竹展」
 - ⑤ 第 8 回「書壇院展院友 日本文の書」展 I・II・III
 - ⑥ 第 100 回記念展（企画展示）
吉田苞竹雲峰詩書碑建立 15 周年記念「鄭道昭展」

2 調査研究

- (1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続した。
 - ① 釈文の採録については、新たな進捗はない。
 - ② 粗読みを継続中。
- (2) 吉田苞竹及びその書作品、又は書に関連する研究論文を募集したが、応募がなかった。
- (3) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

3 展示事業

- (1) 企画展示は以下のとおり実施した。
 - ① 第 100 回記念展
吉田苞竹雲峰詩書碑建立 15 周年記念「鄭道昭展」
会期 平成 27 年 11 月 1 日（日）～平成 28 年 2 月 28 日（日）
吉田苞竹購得の旧拓及び新発見・再発見を含む鄭道昭書の整拓本 29 種と剪装本 6 種を展示。又『潘存臨鄭文公碑』と諸家臨を展覧し、図録を発行した。

(2) 平常展示を実施した。

① 第97回展 「かなと書簡」

会期 平成27年4月7日(火)～5月17日(日)

② 第98回展 「吉田苞竹展」

会期 平成27年5月20日(水)～6月14日(日)

③ 第99回展 「吉田苞竹展」

会期 平成27年7月29日(水)～8月30日(日)

(3) 第8回「書壇院 日本文の書」展を開催した。

会期Ⅰ 平成27年6月17日(水)～6月28日(日)

Ⅱ 平成27年7月1日(水)～7月12日(日)

Ⅲ 平成27年7月15日(水)～7月26日(日)

(4) 第8回「書壇院展院友 日本文の書」展を開催した。

会期Ⅰ 平成27年9月2日(水)～9月13日(日)

Ⅱ 平成27年9月16日(水)～9月27日(日)

Ⅲ 平成27年9月30日(水)～10月12日(月・祝日)

『2』 講演会・ギャラリートーク

1 講演会

第21回文化講演会を実施した。

演題「江戸末期における日中書法の交流」

講師 大橋 修一 先生

(埼玉大学名誉教授・川口短期大学教授)

日時 平成27年6月7日(日)

会場 国立近代美術館講堂

参加者 124名

会費 1,000円

2 ギャラリートーク

企画展示開催に付随して以下のとおり実施した。

平成27年10月30日(金) (報道招待)

平成27年11月20日(金)

平成 28 年 1 月 15 日 (金)

『3』 展覧会

1 第 54 回 書壇院竹心展

会 期 平成 27 年 4 月 7 日(火)～ 12 日(日)

会 場 東京銀座画廊・美術館 (銀座貿易ビル 7F)

出品者 書壇院展審査会員及び書壇院展院友 (特別選抜者)

出品数 194 点

審査会員 漢字部 145、かな部 25、南画部 11、
日本文部 5

院友選抜 漢字部 6、かな部 1、南画部 1

入場者数 1,267 名

2 第 8 回 「書壇院 日本文の書」展

会 期 I 平成 27 年 6 月 17 日 (水) ～6 月 28 日 (日)

II 平成 27 年 7 月 1 日 (水) ～7 月 12 日 (日)

III 平成 27 年 7 月 15 日 (水) ～7 月 26 日 (日)

会 場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展審査会員

出品数 125 点

3 第 8 回 「書壇院展院友 日本文の書」展

会 期 I 平成 27 年 9 月 2 日 (水) ～9 月 13 日 (日)

II 平成 27 年 9 月 16 日 (水) ～9 月 27 日 (日)

III 平成 27 年 9 月 30 日 (水) ～10 月 12 日 (月・祝日)

会 場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展院友

出品数 100 点

4 第 82 回 書壇院展

会 期 平成 27 年 12 月 5 日(土)～11 日(金)

会 場 東京都美術館 (東京・上野公園)

出品者 全国公募による出品者・審査会員・院友

出品数 1,176 点

公募 (734 点)

第1部漢字自運 242、第2部漢字臨書 195、第3部かな自運
29、第4部かな臨書 20、第5部南画 16、第6部日本文 37、
第7部篆刻 13、

半切部 182 (漢字 137、かな 13、南画 30、日本文 1)

審査会員 (235 点)

漢字部 152、かな部 27、南画部 11、日本文部 5、
6部日本文部 3、7部篆刻 2、部門外日本文 34、遺作 1

院友 (207 点)

漢字部 176、かな部 21、南画 10

・ギャラリートーク

平成 27 年 12 月 5 日 (土)

講師 阿部 跳龍 先生 (書壇院展副会長)

5 第 82 回 書壇院学生展

会 期 平成 27 年 12 月 5 日 (土) ~ 11 日 (金)

会 場 東京都美術館 (東京・上野公園)

出品者 全国公募による小・中・高校生

公募総数 654 点

陳列数 643 点

高校 57、中学 134、小学 452

【Ⅱ】 公益事業 2 書道に関する支援・能力開発事業

『1』 書道に関する技能能力の審査・認定

1 各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を以下のとおり実施した。

(1) 『書壇』漢字・かな・南画昇位試験

締切 平成 27 年 6 月 7 日 (日) 受験者：29 人 合格者：21 人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

締切 平成 27 年 8 月 7 日 (金) 受験者：167 人 合格者：123 人

(3) 書道・南画教授認定試験

締切 平成 27 年 9 月 7 日 (月) 受験者：9 人 合格者：9 人

(4) 『書壇』上位・極位・雅位試験

締切 平成 28 年 3 月 7 日 (月) 受験者：240 人 合格者：106 人

『2』 書道教育研究誌の頒布

1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を行った。

○ 『書壇』・『学生書壇』を次のように頒布した。

『書壇』 1部 700円 (送料・消費税込)

『学生書壇』 1部 400円 (送料・消費税込)

○ 『学生書壇』購読者の漢字・かな・硬筆すべての部門の出品料を引き続き無料とした。

○ 『書壇』購読者の漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門の出品料を引き続き無料とした。

○ 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定

過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を協力員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2) 『書壇』について

① 月例掲載記事は平成 26 年度に準じて行った。

② 表紙は書壇院蔵の「古硯」とし、裏表紙は、4 月号から書壇院蔵の作品に解説を添えて載せた。

③ 「同人参考手本」

条幅・半紙共、読者の競書出品の参考となるようにした。

また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。(漢字・かな・日本文)

④ 「漢字規定」

上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句とした。小字の課題は引き続き古典と近藤秋篁書の臨書を取り入れた。

⑤ 「かな規定」

極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～六位及び新規は同人による参考手本を掲載した。

⑥ 「南画規定」

南画初学講座として同人による参考手本と解説を載せた。

⑦ 「漢字臨書規定」

古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、同人の参考手本(条幅・半紙)と解説を載せた。

⑧ 「かな臨書規定」

極位～二位は古典の臨書とし、三位～六位はその中の一部分を同人の参考手本により臨書した。

⑨ 「日本文の書」

同人による参考手本(半紙規定・条幅規定)を掲載し、規定と随意を募集した。

⑩ 「篆刻入門」

同人による参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。

⑪ 随時掲載記事

「私の好きな古典」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他の記事を随時掲載した。

⑫ 「審査会員遊苑」

『書壇』同人以外の審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技倆の向上に資するよう努めた。(漢字・かな・日本文)

⑬ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。

⑭ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。

- (1) 日本文
実施日 第1回 平成27年5月30日(土)
第2回 平成27年5月31日(日)
講師 渡邊 溪山 先生 (書壇院展日本文部審査会員)
会場 書壇院ホール
参加費 2,000円(各回)
参加者 第1回23名、第2回23名
- (2) 水墨画(南画)
実施日 平成27年10月3日(土)
講師 岩崎 桂花 先生 (書壇院展南画部審査会員)
会場 書壇院ホール
参加費 2,000円
参加者 22名
- (3) 篆刻
実施日 平成28年3月19日(土)
講師 鈴木 青雨 先生 (書壇院展漢字部審査会員)
会場 書壇院ホール
参加費 3,000円
参加者 15名

3 書初め会の継続実施

平成28年1月4日に書初め会を実施した。

- ① 大作揮毫パフォーマンスを行い、揮毫者の意欲の向上を図るとともに一般参加者の書への関心をたかめた。
- ② 大作揮毫パフォーマンスの作品を、1月中、仙石山森タワーショーウインドウに展示した。
- ③ 一般参加者には本院が用意した下敷き、紙、筆、墨液等自由に使って各々書初め揮毫を体験してもらった。
- ④ 参加者の求めに応じて指導・助言を行った。
- ⑤ 一般参加者の作品を会場に展示して鑑賞した。
- ⑥ 子どもたちには、ささやかな「福引」に参加してもらった。

4 「若竹会」活動の一層の活発化

- ① 「若竹会」(次代を担う若い世代の会)

若竹会を年3回（7月18日（土）、8月15日（日）、12月5日（土））開催した。若竹メンバーが多数参画する方向を目指した。

② 第4回インターネット展の開催

若竹会の活動の成果を発表するために、引き続きインターネット展を開催した。

③ 書壇院若竹作品発表会を実施した。

会期 平成28年3月15日（火）～3月27日（日）

会場 書壇院ギャラリー

出品数 231点

5 他団体の育成事業への指導協力・支援

① 山形県鶴岡市立朝暘第二小学校（吉田苞竹の母校）

書初め会への支援を行った。

② 東京都美術館主催 「TOKYO 書 2016 公募団体の今」展に2名を選

抜して、出品協力した。

【Ⅲ】 収益事業

『1』 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10アークヒルズ仙石山森タワー27階部分）床を賃貸した。

『2』 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、利用者の使用に供した。

【Ⅳ】 その他

『1』 懇親会

展覧会・講演会実施に付随して懇親会等を開催した。

- 1 「第54回竹心展」懇親会（参加者111人）
- 2 「第21回文化講演会」懇親会（参加者34人）
- 3 「第82回書壇院展」親睦会（参加者92人）

【Ⅴ】 新事業の検討

管理業務として、公益財団法人書壇院の活性化を目指す新しい公益目的事業を検討するとともに、必要な公益法人認定法上の手続きを経て、新事業の実施を行うことを目指し、毎月1回検討会を実施した。

事業報告の附属明細書

重要な事項はすべて事業報告に記載した。